

人権・平和・環境
あしだかわ

発行
 南部生涯学習センター
 福山市沼隈町草深 1889 番地 6
 (沼隈支所3階)
 TEL 980-7713
 FAX 987-2382

E-mail: nanbu-syougai-gakushuu@city.fukuyama.hiroshima.jp
 福山市ホームページ ([URL:http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/](http://www.city.fukuyama.hiroshima.jp/)) から「あしだかわ」で検索!

報告

第二講座

人と人をつなげる“まち”の場作りへ

3月15日(金), 人権交流センターにおいて、熊野学区まちづくり推進委員会委員長の
かいた てつろう
 貝田 哲郎 さんを講師に迎え、「ピンチをチャンスに変える地域づくり人材養成講座」の第二講座を開催しました。



熊野町は一人暮らしの高齢者の増加や、スーパーやコンビニの撤退、バスの一部路線廃止、有線放送の廃止により、高齢者の孤立や日々の買い物に不便さを強いられていました。

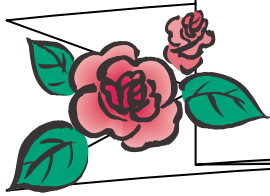
熊野町をより住みやすい町にするため、“ふれあい(交流)を伴った買い物の場”として熊野学区ふれあい広場「クローバー」を自らの手で作ろうと立ち上がりました。運営に当たっては先行事例の山野町「キラリやまの」を参考に、町民の要望も集め100円均一を出店したり、地産品コーナーを作ったり、交流の場として休憩コーナーを設けたりしました。今後も「クローバー」を基点にさらなる熊野町の活性化をしようとして決意されていました。

ピンチをチャンスに変える地域づくり人材養成講座
入門「町内会の底力」

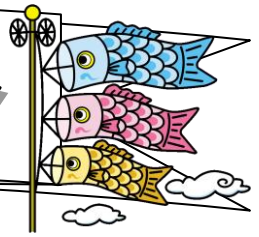


開店の日(昨年7月22日)
 店は買い物客で賑わいました。



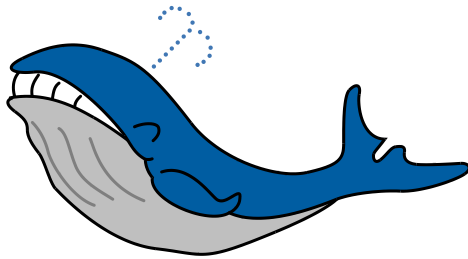


南部こんなんやるday



「世界における日本捕鯨文化」 ～国際捕鯨員会 (iwc) に出席して～

と き 5月18日(土) 14:00～
 ところ 千年公民館 3階大会議室
 講 師 宮本 住逸さん(内海町在住)
 (スタンフォード大学 客員教授)
 主 催 沼隈郷土文化研究友の会



赤坂公民館

TEL: 951-1001

人生、今が旬

余暇についてより知って、より豊かに充実した
いきいき生活を送りましょう!

と き 5月29日(水)
 13:30～(約1時間30分)
 ところ 赤坂公民館2階会議室
 内 容 余暇について
 講 師 三好 久美子さん(余暇開発士)
 参加費 無料
 持参物 なし

☆参加人数把握のため
事前申込をお願いします。



沼隈図書館 TEL: 987-5630

「あかちゃんといっしょのおはなし会」

と き 5月8日(水)・9日(木)
 両日とも11:00～11:30
 内 容 絵本の読み聞かせ、手遊び、
 エプロンシアターなど
 対 象 乳幼児と保護者



講座 「ぬまくま de つくローズ」

と き 5月25日(土) 14:00～15:30
 内 容 バラをモチーフにした紙製の壁掛けフォトフレーム作成
 対 象 小学生以上 ※小学生はおとなと
 定 員 15人(先着)
 申込み 5月7日(火) 10:00～
 来館または電話で
 持参物 はさみ、スティックのり、両面テープ、写真 など

☆どちらも沼隈図書館にて、無料で行われます

報告

第三講座

獣害対策からコミュニティ作りへ ～ 青空サロンに集う 元気と笑顔 ～

2月22日（金） 人権交流センターにおいて、島根県美郷町から安田^{やすだりょう}亮さんを講師に迎え、「ピンチをチャンスに変える地域づくり人材養成講座」の第三講座を開催しました。

島根県美郷町（邑智郡）は過疎・高齢化の進む街で、近年問題になっているイノシシやサルなどの害獣対策を地域をあげて取り組んでいることが注目されています。

以前の安田さんは、市主催のイベントに多くの人に参加してくれることで満足していました。しかし、人は集まるがイベントを通して何も根づいていないと感じ、そのときから一住民として地域みんなでつくる事業をしようと思われたそうです。



害獣対策について安田さんは、「獣害対策は事業としては点であり、あくまできっかけ作りである。



そこから、獣肉利用をしたり土地を整備する事によって点から線へ、線から面へと地域づくりにつながる。そうして“住民で作るコミュニティ”を作ることができる。」と話されました。

獣害対策だけでなく、暮らしが豊かになるようにみんなで話し合う・助け合うコミュニティを作ることが、大切であると講演を締めくくられました。

親子ビデオ上映会！

入場無料

日時 5月12日(日)

1回目 10:00～11:00

2日目 13:30～14:30

場所 人権平和資料館

内容

花さき山(20分)

一つの花(25分)

やさしいオオカミ(15分)



やまもとたきのすけ あしあと たず

青年の父 山本瀧之助の足跡を訪ねて

【21】同窓会と『青年の天地』発行

瀧之助は、数日間寝食を共にした講習会が一度限りの交わりでなく、その後も未永く交友が結べることを狙って青年講習所同窓会を作った。また、同窓生に、長男会・次三男会・早起同盟・青年団支部長会などの各種の会を作らせ、相互に文通で情報を交換させ、青年同志の結びつきを強めた。同窓会のあるべき姿として、「足はどこまでも郷里の土を踏み、頭は町村外に友を求め、他府県にも同志を持つこと」を考えていた。

同窓会員には、10ページの『会報』を無料で配布した。『会報』には、講習会参加者名（これが同窓会名簿となる）、講習内容と共に会員の声や瀧之助の所感・主張が綴られている。『会報』は、10号までは不定期の雑誌であったが、11号からは『青年の天地』と改題、毎月15日発行の月刊誌となり、ページ数も16ページ～20ページに増やし、購読料を徴収するようになった。編集・発行は、瀧之助が講習会の運営、準備に多忙なため、代わって大阪毎日新聞社事業部（橋詰せみ郎部長）が行った。1929年（昭和4年）5月から翌年3月15日の最終号までは、瀧之助が編集発行を行った。

『青年の天地』には、瀧之助が講習会で話した内容が時に出てくる。「道を尋ねられたので丁寧に教えてあげた。この丁寧は、いわば余計なことで、この丁寧なこと・しなくてもよいことを付け足すことが一善になる。」と解説している。また、日常生活の所感として、「『はい』という返事。まことに大切なことである。この『はい』という返事をする心がけがあると、世の中は潤される。」「先方が帽子に手をかけない内に、早くこちらから帽子に手をかけ、言葉をかけたい。お互いにこうした心がけがあったら、世の中は余程和らいでくる。」など、心がけたいことがたくさん載せられている。

巡回青年講習所の同窓生は、瀧之助の死後も1933年（昭和8年）『若鷹』を5年間20号まで不定期に発行し続けた。戦後の1960年（昭和35年）「山本瀧之助を偲ぶ集い」を持ち、1976年（昭和51年）から『続 青年の天地』を年1回発行した。

同窓生たちは手紙で絆を強め、瀧之助はその死後も、師であり、父であり続けたのである。

執筆：上田 靖士（山本瀧之助研究会）

ボーンズのわんぱく

みなさんは「セルフ・エスティーム」という言葉をご存知ですか。心理学の分野で、自分自身を好きになる気持ち(自尊感情)のことを言います。

新年度・新生活が始まって約一ヶ月、新しい環境で色々な人に出会ったと思います。私たちは、それぞれ独自の個性・感性・能力を持っています。お互いに理解しあい、豊かな生活を送るためには、自分を大切にすることが必要です。一人ひとりが、自分を大切な存在だと思い、主張することでみんなが等しく大切な存在だと言えます。

人を認めるにはまず、自分を好きなることから始めてみてはどうでしょうか。

